

応募者	学校法人かいけ幼稚園
1. 活動名	リサイクルランド(資源ごみ回収&学用品寄付)
5. 表彰の対象となる活動の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別やリサイクルを、子どもたちにとってより身近なものにする。ゴミが分別されていないことに違和感を感じられる子どもを育てる。 ・親子でゴミの問題や SDGs について考える機会に繋げる。 ・リサイクルの過程で得た利益(ポイント等)を活用して、開発途上国へ文房具の寄付を行う。そうすることによって、世界の問題を解決するために自分にも出来る事があると子どもたちに気付いてもらう。
6. 表彰の対象となる活動内容	<p>(表彰の対象となる活動であることを確認して、チェックしてください。)</p> <p>(① 実施期間、②対象者・参加人数、③実施場所、④活動概要などを記載してください。)</p> <p>① 2021年10月～現在まで</p> <p>② 学校法人かいけ幼稚園の園児及び学童利用児とその家族、職員、その他法人の関係者</p> <p>③ 認定こども園かいけ心正こども園駐車場</p> <p>④ 本園では日ごろから海岸清掃を行っており、ゴミ問題への意識が高まっている。その中で、そもそもどうして海にごみがあるのかという疑問から、ゴミの始末・分別について考える機会を設けたいと考え、このリサイクルランドの活動を始めた。古くなった園バス(ライオン型)を改装し、リサイクルステーションとして運用している。ペットボトル、アルミ缶、スチール缶、古紙、ペットボトルキャップの回収を行っている。曜日や時間帯に制限なく回収を行っているため、分別やリサイクルに対するハードルが下がり、登降園の際に親子で楽しく分別をすることが出来ており、ゴミを捨てる時には、然るべき方法で然るべき場所に始末することが当たり前に行える子どもたちが育ちつつある。</p> <p>回収した資源ごみについては、古紙ランドやイオンに持ち込みを行い、現金やポイントに変換している。令和3年度はその利益を使用し、開発途上国へ文房具の寄付を行った。また、園児に、世界には学校に通えず困っている子どもがいる事を伝え、途上国の子どもたちへ向けたメッセージカードを作成し寄付に同封することで、自分たちの行動が、世界の問題の解決に繋がっていることを実感できるようにした。</p>

表彰の対象となる活動の自己評価

①モデル性	<p>(6に記載の活動において、特に他の団体等の模範となるような工夫などについて記載してください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルステーションそのものも、古くなった園バスの車両を改装して使用しているため、資源の有効活用となっている。 ・園児や学童利用児のみでなく、保護者も巻き込んだ活動であるため、園発信で各家庭へ SDGs の考え方や大切さを広げることが出来ている。 ・リサイクルを行うに留まらず、その利益を利用して開発途上国への寄付を行っている。また、子どもたち自身がより達成感ややりがいを感じられるよう、メッセージカードを作成したり、園児へ寄付と同額の SDGs 関連 絵本を贈呈したりしている。
②ネットワーク	<p>(6に記載の活動の効果を高めるために活用した、又は新たに構築したネットワーク(個人・団体とのつながり)について記載してください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大成商事の古紙ランドやイオンと連携を図り、リサイクルを行っている。 ・法人に関わる企業に活動の概要や成果を説明し、活動に賛同していただける場合には、協賛企業としてバス車内に名刺を張っていただいている。 ・公益財団法人 ジョイセフ様の学用品寄付の活動に参加し、令和3年度は約3万円分の文房具の寄付を行った。
③包摂性	<p>(6に記載の活動において、「誰一人取り残さない」の理念に則った取組であることや、多様性という視点が活動に盛り込まれていることなどについて記載してください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の協力が必須となる活動のため、子どもたちだけでなく、家族を巻き込み、一緒に SDGs の問題に向き合う機会を提供することが出来ている。 ・単にリサイクルをするだけでは、国内での資源の活用のみで完結してしまうところを、その利益を活用して開発途上国へ文房具の寄付を行うことで、国外の問題にも繋がりを持たせている。
④統合性	<p>(6に記載の活動において、経済・社会・環境の分野における関連課題との相互関連性・相乗効果や、統合的解決の視点について記載してください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルの利益を使用して開発途上国へ文房具の寄付を行うことで、12番や14番・15番の環境に関わる問題の解決だけでなく、4番や16番の平等性や教育の問題にも関連した活動となっている。
⑤継続性	<p>(6に記載の活動において、活動を継続していくために努力している点(例:財源の確保など)、及び今後の計画について記載してください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理員が毎日車内を確認し、適切に分別が行われているかチェックしている。問題が発生した際には、保護者へフィードバックを行い、改善していただくよう努めている。 ・取り組みの進捗状況や、利益の活用実績などについて、保護者連絡アプリやSNS等でお知らせをすることで、活動の成果が見える化し、継続的な利用への意識を高めている。

その他、6に記載の活動又は運営主体の特徴、取組のPR等を記載してください。

本園では、SDGs 推進活動を「じぶんごとぶるじえくと」と題し、子どもも大人も関係なく、一人ひとりが世界の問題を自分事として考える事を目指し、様々な活動を行っている。活動を計画するにあたり、最も大切にしていることは「ワクワク」。SDGs をやらされていること・やらなければならないこととして位置付けるのではなく、「楽しいからやりたい」「こんな世界にしてみたい、その為にやってみよう」という思いを中心に活動できるように掛けている。

今回応募するリサイクルランドの活動も、ライオン型の旧園バスを利用することで、かわいいバスに乗れるという「ワクワクポイント」を作った。さらに、分別をゲーム感覚で楽しめるよう、回収ボックスを色分けしたり、子どもたちと作成した看板を掲示したりした。何事も、楽しくなければ続かないという思いで計画を立てている。